
最高にORANGEな夏・もしくは冬

KAZA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最高にORANGEな夏・もしくは冬

【Zコード】

Z5742C

【作者名】

KAZA

【あらすじ】

薫は彼氏いない歴十七年。ほとんど恋愛なんて投げていた薫だつたけど、夏休みにオーストラリアにホームステイに行くことに！！そこで起るさまざまな出来事、そして出会いー。。。ありえないようで実はホントの、真夏の（いや真冬の？）元気になれる恋愛小説。

窓の外は真っ暗で雲と月しか見えない。

『本機はただいまグアム上空を航行中です。』機内アナウンスが流れる。あーもうっ！せっかく窓際なのに、真っ暗で何も見えない。グアムなんてどこにあるのよ！ていうか、飛行機のエコノミー席がこんなに狭いなんて知らなかつた！！狭すぎて眠れないし！！

隣の彩花と亜優は気持ち良さそうに、スースー寝息をたててる。飛行機のつて、機内食食べて、その後御就寝。そんなんでええんかーい！しゃべつたり、映画見たりしないの？？突つ込みたくなるあたしだつた。

あたし、風間 薫。今、花の高校二年生。東京の町田で家族五人（人＝3、猫＝2）と暮らしている。

お父さんは空間デザイナー、お母さんは図書館の司書、猫2匹は。IT企業に。。オットーあたしはといふと、持ち前のさばさばした男っぽい性格のせいで、『なんかさあー、おまえ女つて言うより、男友達つて感じ』といわれつづけ、ついでに彼氏イナイ歴十七年のさもしい女。

あつ、ダメよ！そんなこと考えてたらもてない女オーラがでてしまう！！

。話はかわるけど、皆、なんであんなところから話が始まつてんの！？って思つたよね（あたりまえだろ！）

それはといふとねー。

。あたし、薰こと風間 薫は夏休みにオーストラリアに一ヶ月間ホーミステイすることになったからなのです！—英語力があーーッ！！イヤーーッ！

（脅迫）で渋々いく気になつたんだけど、はじめは憂鬱でしょうがなかつた。だつて、英語は一応得意だけど（自称）、向こうで喋れないのに一ヶ月も生き抜けると普通思つ？—思わないよね？！あ

お母サマのすすめ

たしは出発（7月24日）が近づくにつれて、だんだん生きた心地がしなくなつてきた。

。。でも遂に出発の前日になつてしまつた。。

翌日の11とで朝から最高にブルーなあたしの元に友達からメールがきた。『薰、いつてらつしゃあーー（＊＊＊）向こうでイケメンつかまえろ ついでにおたんじょーびオメデトッ』「こいつ！自分は彼氏いるからって！てか誕生日はついでかよーん でも。 まてよ。これはチャンスかもッ！ そうよッ！ 英語なんか喋れなくてもいいのよ！ 愛は国境を越える！ 日本の貧困な男なんか捨てて、リッチでアダルトな世界へGOよッ！ わらばさもおー（やもしりおんな） とかなんとか勝手に思つてあたしは出発の日をむかえたのだった。

。今考えるとこれは必然だつた。。。のかもしれない？ 最高にオレンジな夏の。。いや、冬の？

その日あたしは朝フツーに起きて一時くらいいに家をでた。あー朝ご飯のはんぺん最高 やつぱり日本食に勝るものはないわね。成田までは車で行くから、重い荷物をもたなくて済みそうでラッキー。確か7時半発の飛行機だつたな。。あたしはそんなコトをぼんやり考えながら車に乗り込んだ。 車のなかでは好きなバンドの歌をかけつつ、昨日の11とであたしはめっちゃわくわくした。

お母さんが、向こうではお行儀良くね、とか小言を言つてたけど、あたしには聞こえない。

だつてあたしの頭のなかはヨーロッパみたいになつてるんだもん。そもそもおよサラバー つてカンジのね。

成田には予定より遅く着いたやつて、時間がなかつた。

もつ駆け込みで搭乗しなきやー。。お父さんとお母さんこいつてます！ つて元気についたのはいいものの、正直、この歳でやるのにはハズかつた。。そして、両親と別れた後、初めてツアーメイトとい

対面！ツアーメイトはあたしも含めて十四人。西は大阪、東は宮城まで。年もばらばらで一番下の子はナント中学校二年生！英語、勉強して一年ちょっとじやつらいだるーなあ。。ちなみに高一は一番年上。あたしのほかには6人。皆、フレンドリーそうで良かつた。すこし、安心。

『せまーい！』なんなんじや絶体からだ痛くなる！』彩花が言つた。

『飛行機で一晩だからつらいよねえ』亜優が答える。あ、彩花と亜優はツアーメイト。会つてまだ少しだけど、結構仲良くなつたんだ。飛行機の席が三人並んでたからね！ちなみにあたしは窓際！ラツキーとか思つて意気揚揚と乗り込んだわけだけど、二人の言うとおり！さすが、エコノミーは席が狭い。。。お金持ちになつて、せめてビジネスクラスに座りたいよー！あ、なんかナゾ！つてヒトの為に説明しとくね！！飛行機の座席は3クラスに別れてて、上からファースト、ビジネス、エコノミー。ファーストクラスは大物政治家とかセレブの席で、バーとかもあつて席は数十万するらしい。ビジネスはエリート会社員やプチセレブの席。席の広さはエコノミーの1・5倍つてとこ。でもこれでも十数万するんだよ。そして。エコノミーはあたし達一般庶民の席。座りごこちとかは。。これから一緒に体験して！！

席に着くと、想像どおり狭かつた。

『まもなく離陸します』機内アナウンスが流れる。あたし、飛行機のグワッてあがるのキライなのに。

。 ギヤーッ！抵抗も虚しく飛行機はスピードをあげて行つた。。。。

飛びそうな意識のなかで、日本の夜景が見える。行つてきます！帰つてくるときには一回り成長してくるから！！

陸から飛行機が離れる感じがした。

ここまで読

んでくれてありがとうございます。恋愛小説のつもりですが、ここまで一度も恋愛要素がないといつ。ですが二章目からは少しずつぱら色になる予定なので気長に待っていてください。読みおわったときにはあなたも題名と同じ、オレンジ色に染まつてくれると嬉しいです。

飛行機が離陸して早三時間。

なにもすることが無い。

彩花も亞優も機内食を食べてから早々に寝ちゃったし。
さつきグアムの上って言ってたけど、今は夜の十時半。
当然ながら外は真っ暗で、月と雲しか見えない。

あたしはあまりに暇でちょうど始まつた韓国映画でも見ることにした。

映画はありきたりなサクセスストーリーだった。

まあ、時間つぶしにはなつたけど。

外は相変わらず真っ暗だった。

今はたぶん十一時位じやないかな。

てことはもう今日オーストラリアにつくんだ。

ちなみにあたしが行くのはオーストラリアのアデレード。

南極海に近い英國風の小さくてきれいな町らしい。

なんだかそれだけでも幸せだつたけど、せっかくオーストラリアに行くのに、シドニーにもキャンベラにも行けないのは残念だつた。

観光旅行じやないから、しようがないけど。

。あたしがいくのはシングルマザーのジョリー家で兄弟は一人。
十二歳の男の子と十一歳の女の子。あとスペインから留学生が二人
きてるらしい。。。行く前に事前に知らされているのはそれだけ。
今のおたしの生活とはずいぶん違う環境に行くことになる。それよ
り。。。スペイン人つて。。。いつたいなんなんだらう。。

そんなことを考えていると、あたしは徐々に眠くなつてきた。あ
たしはこのまま考えていてもしようがないのでしばらく眠ることに
して、外の月を眺めながら目を閉じた。

横の亞優に起こされた。『薰！朝よ！もうすぐ朝食だから起きて。』首が痛い。寝違えたみたい。窓の外は薄紫色になってきていてとても綺麗だ。

『今何時？』

『四時半よ。』

飛行機の進路図で確認してみると、もうすぐオーストラリアに入りそつだつた。

アデレードへは東京からの直航便がないから、あたし達はシドニーを経由してアデレードに行くことになつていて。後一～二時間でこの飛行機ともお別れだ！

足がぱんぱんになつていてから、もう少しで解放されると聞いてすごく嬉しかつた。あたしは下りる準備を始めた。

シドニーの空港につくと、猛烈に寒かつた。忘れかけていたけど、こちちは冬だつたんだ！北半球の日本が真夏なのに対してこつちは真冬。夏休みなのか、冬休みなのか。。。

シドニーの空港も楽しそうだつたけど、乗り換えの時間がせまつてたから見ている暇がなかつた。シドニーからは国内線に乗つていいく。オーストラリアは国土が広いから、日本の新幹線の感覚で飛行機を使う。これから飛行機はオーストラリアの航空会社。ここで日本語ともとうとうお別れだ。なんだかこれからはこの言葉が通じないなんて不思議だつた。

アデレード行きの飛行機に乗り込むと、覚悟はしていたけど、ああ、外国に来たんだなあつて思つた。話している言葉がわからないし、自分みたいな外見のヒトも少ない。なんだか急に、心細くなつた。。

シドニーからアデレードまでは一

時間位すぐに着いてしまった。来るとときはボーイフレンドの一人や一人、つくてやるぞーと意気込んでたけど早くも帰りたくない。だって一ヶ月も生き抜ける自信無いもん！

でもそんなあたしの気持ちとはうらはらに、飛行場には迎えのスクールバスがもう来ていた。そう、あたし達はこっちで毎日学校に通うの。せっかく日本は夏休みなのにね。

先生はハンパーティダンパーティみたいな体型で鮮やかな紫のスーツを着ていた。やさしそうな人で、何か言つていたけど何もわからなかつた。。。

あたし達を乗せたバスは町中を走っていく。こっちの家は日本みたいに一階建とかマンションじゃなく、だいたいが平屋だてだつた。なんかレゴの世界に迷い込んだみたい。でもアーテレード一帯は日本の気候とてんから、空や緑から受ける印象は同じだつた。日本の北海道です。って言われたら納得するかもしれない。唯一の違いは地平線が見えるところくらい？あたし達はアーテレードって言つても、そこから車で二時間位いつた田舎にいく。窓から見える景色がだんだん見えなくなってきた。。

バスが止まつた先は学校。学校は木に覆われてて、周りはひたすら草原だつた。学校の前に申し訳程度の商店街があるだけあとは本当に何もない。あたし達はいつたん学校に集合してから、各自の家の人を迎えてもらうことになっている。あたし達はスクールオフィスに通された。ここでホストファミリーを待つらしい。

がちゃ

可愛いブラウンの髪の男の子が『ユウ一』と黙つて駆け込んできた。どうやらツアーメイトの北 悠君のホストファミリーらしい。悠くんと握手して何やら話し掛けている。

その後も続々と

ホストファミリーが迎えにきて、半分くらいは皆行つてしまつた。

あたしは迎えに来てくれないんじゃないかってだんだん不安になつてきた。

時ー。。

がちや

その

男の子が入つてきたー。。

緑色の目のかわいい

かつこいい〜…

皆が茫然として見守る中、その男の子はあたしの方に近づいてくる。

『薰かな?』

(以下英語です。)

とに一瞬意識が飛んでいたあたしだけど、正氣に戻った。

(えつ 英語だ。。こつこたえなきや) 突然あらわれたハンサムな男の子と英語にしじろもどりになりながらもあたしは答えた。

『えつ、ええ。』

『そうか。よろしくね。僕はパブロ

です。スペインから来てる。』

(えつ、この人人が留学生?てか、英語しゃべってるし。。ちょっとなまつてるけど、うまいじやん!)

『わ、

行こ!。荷物はそれだけ?』

そう彼は言つと、あたしの荷物を持つてドアに向かつてスタスタ歩きだした。

あたしはあわてて彼を追い掛けて外にでた。

外には車が待つていて、中から猛烈にビックな女性が飛び出してきた。

あ、思ったとおりかわいいわ。ねえ、パブロ!』 そういうてその女性はあたしを抱き締めた。あたしは突然のことにしじろもどりになつていたけど、パブロはその様子をほほ笑みながら見ていた。

荷物を積み込み、あたしが

後部座席に座ると車はすぐに発車した。すぐに家に向かうのかと思つたが、その前によるとこりがあるといつ。

『あたしのフィアンセのうちなの。パブロがサッカーをやつてるんだけどそこに近いから、彼の家で準備をしてからいくのよ。』

ちなみに ハリカは三十八歳。

旦那さんは離婚したそうだ。

（向こうは日本よりずっとシングルマザーなどが認められている。）

今はバリーさん（これから向かう家の主人）という恋人（婚約者）がいて十一月に結婚するらしい。

あたしは自分とのあまりの境遇の差と慣れない言葉と長旅の疲れからそのまま死んだように眠り込んでしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5742c/>

最高にORANGEな夏・もしくは冬

2011年1月4日23時30分発行